

大阪・関西万博に向けた 取り組み

大阪市建設局長 寺川 孝



現在、関西の交通ネットワークは大きく変化しようとしています。

今後計画されている北陸新幹線の延伸や、リニア中央新幹線の整備等によって各都市とのアクセス性向上が図られます。特に、リニア中央新幹線が開通すれば、東京一大阪間を短時間で移動できるようになるため、巨大都市圏として東京や名古屋と一体化し、物流強化等を図ることが可能だと考えています。また、大阪の南北をつなぐ地下鉄なにわ筋線の整備も進めており、これが開業すれば関西国際空港とのアクセスも向上します。

道路については、淀川左岸線（2期）と淀川左岸線延伸部を整備することで、現在大阪市内で発生している慢性的な交通渋滞の緩和を目指します。さらに、大阪・関西万博開催中は、新大阪駅や大阪駅から万博会場となる夢洲へ向かうシャトルバス専用のアクセスルートとして、この道路を利用することとしています。

大阪・関西万博をきっかけとした まちづくり

2025年に開始する大阪・関西万博を契機にまちづくりも進んでおり、大阪市のメイン通りである御堂筋周辺や新大阪周辺、大阪城公園周辺など様々な地区で再開発等が行われています。

御堂筋周辺では、中之島通りの歩行者空間化により、安全性や回遊性、エリア全体の魅力向上に取り組んでいます。また、新たに公園となる中之島広場においては、沿道施設の関係者と管理者等が連携することで、ウィズコロナ時代における新たな利活用策の展開を検討しています。

水辺空間のにぎわい創出としては、これまで「道頓堀水辺整備事業」等を進めてきました。現在は、道頓堀川と東横堀川の水質改善にも取り組んでいます。雨天時の下水道・越流水の解消に向けた地下貯留管の整備のほか、中浜下水処理場に超高度処理（膜分離活性汚泥法：MBR）を導入しました。既存施設を活用し、高速ろ過とMBRを組み合わせた処理を行っており、処理能力・処理水質の向上を実現しました。また、中浜下水処理場でのMBR処理水を東横堀川に放流するため、既設の送水管を活用し、東横堀川へ送水管を延長しました。これにより、河川水質の改善、水辺の魅力向上に寄与していきます。

「未来エネルギー創生」をテーマに

大阪・関西万博は、経済発展に大きな効果が得られ、また、大阪の魅力を全世界に発信できる絶好の機会であると考えています。今回の万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。来場される皆さんには、このテーマに関する様々な体験をしていただきたいと考えています。

大阪市としては「未来エネルギー創生」をテーマに、水素供給の仕組みのショーケースを検討しています。下水道分野については、二酸化炭素フリーの水素として、下水処理場で発生したバイオガスを用いた水素精製に関して提案予定です。また、この水素エネルギーの利活用策として、万博会場内を走る燃料電池自動車等での活用を検討しています。